

# ハート・オブ・ゴールド

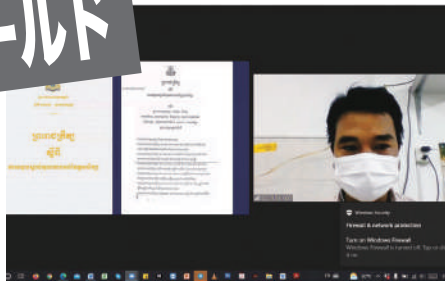
通信



vol.46

2022年1月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局  
本部 〒701-1213 岡山市北区西幸川 895-7  
レジデンスアロー 101  
TEL&FAX 086-284-9700  
E-mail: hginfo@hofg.org  
https://www.hofg.org/



体育科コース運営ワークショップ (Keo Sochetra)



ジム機材メンテナンス・使用方法研修会



譲渡式 ハンチュオンナロン大臣から感謝状をいただきました



HG スタッフ 寄贈記念プレートの前で

## 【日本 NGO 連携無償資金協力事業】

## 国立体育・スポーツ研究所 (NIPES) 体育科コース4年制大学化プロジェクト

プロジェクト・マネージャー 手束 耕治

5月中旬に約1カ月続いたロックダウンが解除されましたが、学校閉鎖が継続されたため、その後に予定していた活動はオンラインで実施しました。

6月28日から30日までの3日間「体育科コース運営ワークショップ」を開催し、本事業の第1年次で作成した体育科コース運営ハンドブックに従ってNIPESが日々の業務を実施できているかどうかを確認しました。

7月はオンラインモニタリングの経験がないNIPESの先生方に、HGスタッフがZoomの使い方等をトレーニングし、随時サポートしながら1カ月にわたる教育実

習をモニタリングしました。教育実習は例年であれば実習先のプノンペン市内の中学校においてNIPESの学生が中学校の生徒に対して実際に授業をします。学校閉鎖のため、NIPESの2年制コースの2年生と4年制体育科コースの2年生が、NIPESの学生を生徒に見立ててオンラインで模擬授業を行い、先生がそれを見ながら指導する形となりました。

9月15日から17日の3日間、NIPESの全教職員が参加して、「教える人材、運営するための人材が育成され

たかを確認するための評価会議」を開催し、評価シートを使って運営と授業の評価を行いました。「日本体育大学の認証制度と授業評価」について、岡出教授も日本から講義をしてくださいました。これを受けて、10月11日に評価シートを使い、初めて対面によりNIPES教員養成センターの運営状況をモニタリングしました。

さらに10月20日から22日の3日間、「4年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上するための体育教員育成研修」をオンラインで実施し、新学期に向けて必要なシラバスや指導案の作成、そして模擬授業を行い

ました。

建設工事については、10月末にプールに隣接した建物2階にジムルームが完成し、ジム機材の搬入・設置を行いました。11月16日にはジムの機材のメンテナンスと使用方法の研修会を対面で実施しました。プール周辺のテラス、建物全体は11月末に完成しました。

12月8日に教育・青年・スポーツ省大臣、在カンボジア日本国大使が出席し、盛大に施設譲渡式を開催しました。



プール周辺のテラス、建物（1階はシャワールーム、2階はジムルーム）

## 【JICA 草の根技術協力事業】

# カンボジア王国 小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ 「Physical Education for All」プロジェクト

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

カンボジアのプノンペン都、バットアンバン州、スヴァイリエン州の全ての小・中・高等学校に学習指導要領に沿った体育を普及する「PE for All」プロジェクトは、2月の開始直後に困難に直面しました。新型コロナウイルスの市中感染拡大により、再び学校は閉鎖され、州間の移動やワークショップ等もできない状況となりました。

学校体育・スポーツ局（DPESS）及び国立体育・スポーツ研究所（NIPES）と協議し、4月からは高等学校の指導書を作成する活動に切り替え、オンラインでのワークショップを継続してきました。7月に2回、8月には各種目の最終確認を行うワークショップを実施し、9月10日に教育・青年・スポーツ省事務次官のソー・ソカー氏に説明を行い、了承をいただくことができました。

指導書作成は、本来 DPESS が中心となって進めていたもので、イラストレーターの急な変更等により、予定より約1か月遅れて完成となりました。

高等学校の体育科は、2015年に同省から交付されたカリキュラムフレームワークに従い、「知識・技能・態度」を教える内容になっており、種目は学校側が主体的に決めることができ、教員が生徒の要望を踏まえて領域の中から選択して教えます。

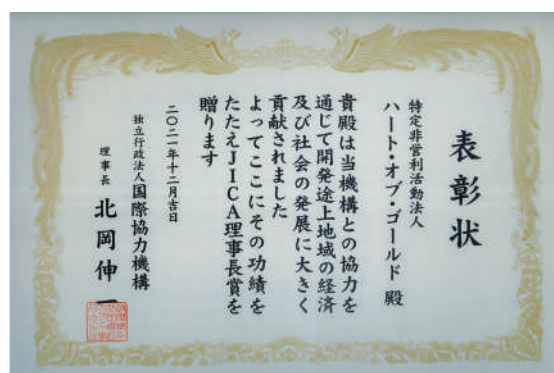
指導書は、9月末から同省カリキュラム開発局が確認

を行い、11月8日にハンチュオンナロン大臣により認定されました。

これにより小学校から高等学校までの全ての学習指導要領、及び指導書が制定されたことになり、学校が再開され次第、ワークショップやモニタリングを通じて、「知識・技能・態度」を教える体育を1都2州の全ての学校に普及させていきます。



10年生、11年生、12年生の指導書



12月9日に、これまでの体育科教育普及の活動が認められ、「第17回 JICA 理事長表彰」を受けました。

## 障害者スポーツ事業

プロジェクト・オフィサー 米山 遥香

2021年8月24日から9月5日に開催された東京パラリンピックに、陸上男子100m T54（障害クラス）にヴァン・ヴォン選手が出場しました。前回のリオパラリンピックに続き、2回目となります。

9月1日午前に行われた予選1組では、なんと2位となり、決勝進出を果たしました。その日の夜に行われた決勝では、7位でフィニッシュ。自己ベストを更新しました！パラリンピックの舞台で決勝に進出したことは、カンボジアにとって歴史的快挙となります。ヴァン・ヴォン選手は岡山キャンプやカンボジアで、WORLD-AC OKAYAMA の松永仁志氏からの指導を受け、たくさんの方を吸収してきました。新型コロナウイルスの影響でトレーニング場であるオリンピックスタジアムが使えなくなっても、自宅や道路で、諦めず懸命にトレーニングを行っていました。

パラリンピックでの活躍はカンボジアメディアでも多く取り上げられており、彼らがもっと注目されることで、障害を持った子どもや若い世代がスポーツを始めるきっかけになれば、と願っています。



パラリンピックファイナリスト ヴァン・ヴォン選手

8月25日には、ラオスでパラスポーツ支援を行っている「アジアの障害者活動を支援する会（ADDP）」とのコラボにより「東南アジアのパラアスリートを一緒に応援しよう！」と題して、オンラインイベントを開催しました。カンボジアとラオスの文化の紹介、障害者スポーツ事情、選手の紹介等、40名以上の参加者の方々に、よりパラリンピックを楽しんでいただける企画となりました。

クラウドファンディングでご支援いただいたパラ陸上競技会は1年遅れですが、2022年3月に開催予定です。



## 日本からの支援

### ■「カンボジアの小学校に鉄棒を贈ろう！」 第11回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国

11月21日午前9時、天気にも恵まれ、296名のランナーを迎えて開催しました。開演前の遊園地を周回するユニークなコースで、これまでに33基の鉄棒支援をしているチャリティランでもあります。インラインスケートチームALIVEのメンバーが各グループの先導となり、玉野市長の号砲で、子ども達が勢よく走りだします。

2年ぶりに参加の有森代表は、「あと一周!」「足を、ももから上げて!」「頑張ってるね!」とコースを行ったり来たりしながら声をかけ、励まし、一緒に走りました。皆さん笑顔で完走し、ゴールでは「ずっと家にいたから、久しぶりに身体を動かしたね」と言う会話も聞こえてきました。



### ■ 数多くの物資をいただきました

今年50周年を迎えられた株式会社栄光スポーツ様より、サッカーボール50個をいただきました。「PE For All」プロジェクトにて、最大限に活用させていただきます。



ブノンペン事務所で届いた物資の確認中

また、同社のランプロ様からも今年で8回目となる「カンボジアにランニングシューズを贈ろう!」プロジェクトにて、ランナーの方々に届けていただいた中古ランニングシューズ過去最多の315足、Tシャツ184枚をカンボジア障害者陸上選手にいただきました。

小学校やロータリークラブなどからも、シューズ、絵本・教材・図鑑、文房具、日用品といった多くの物資が寄せられ、現在は船便でカンボジアに届けています。



社名ロゴ入りのボール50個いただきました

## 20周年誌「カンボジアに体育教育が始まった」

～ハート・オブ・ゴールド20年を超えていけ!～ 感想より

本書を拝読し、AWHM(アンコールワット・ハーフ・マラソン)から始まり大学レベルも含めたカンボジアの体育教育支援に至る多様な事業の展開がよくわかりました。日本とカンボジア双方から実に多くの人が関わり、多くの困難に立ち向かいながら、誰もが情熱をもって努力されましたことに感銘いたしました。HGの大きな貢献に敬意を表し、引き続き御発展を祈念いたします。(個人会員 Oさん)

2020オリンピックは、なかなか困難な中での開催でしたが、皆様の活動は、4年に1度の大会とは全く異なる形でスポーツの可能性や力を示して下さるものだと強く感じました。今後の益々の御発展をお祈りします。(Mさん)

購入ご希望の方は、本部事務局までご連絡ください。(1,000円/冊 送料別)



## グローバルフェスタ JAPAN2021

外務省、国際協力NGOセンター(JANIC)、国際協力機構(JICA)共催の日本最大級の国際協力イベントが、10月9-10日に東京国際フォーラムとオンラインのハイブリッド形式で開催されました。会場ブースでは、パネルと動画による活動の広報を行い、9日には有森代表、10日には志澤理事が応援に駆けつけてくれました。



また、10日は特設サイトにて、教育・青年・スポーツ省のオウク・セティチェット氏と、HG東南アジア事務所の西山所長(通訳:ケオ・ソチェトラ)が、「カンボジアでのスポーツを通じた開発」について報告し、その様子をオンライン配信しました。



# HG ももたろう日本語学校

事務局次長 井上 恭子

現在の授業は、カンボジア人教師3名と、日本から日本人教師2名が指導に当たっています。コロナ禍で、来日の見通しが立たないなか、熱心に日本語学習を続けている学生達があります。また、日本の日本語学校に入学が決まった学生も来日ができず、今も当校で授業を受けています。

これまでHGの日本語教育事業は、7月と12月に実施される日本語能力試験（JLPT）を学習の基準の一つとしていましたが、同試験は2020年から3回中止となっています。そのため、新たに国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）の受験も取り入れることとしました。日本の生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語



JFT-Basic 受験会場にて（プノンペン）

能力を測定するもので、「ある程度日常会話ができ、生活に支障がない程度の能力」があるかどうかを判定します。試験はコンピュータを使って行われます。日本での就労を希望する学生が10月に初めて受験し、合格することができました。この学生達



『いろどり』体験授業

は、更に日本語学習を続けながら、技能実習の手続きを始めています。

岡山学芸館高校に次の留学を予定しているNCCCのスライマイさんが、コロナ禍によりプノンペンでのパスポート申請手続きが遅れていましたが、10月に取得することができました。

12月には学期末定例の個別面談を行い、進路希望の確認や学習の相談に応えました。「1日も早く日本で働きたい」「日本企業で働きたい」という学生の気持ちがヒシヒシと伝わってきます。

また、国際交流基金プノンペン連絡事務所より、職員の方に訪問いただき、『いろどり』体験授業には、学生やスタッフ、NCCCの大きい子達が参加しました。

## 本部事務局にインターン受入れ

### 「栄養」 NCCCの食事調査

岡山理科大学 2年 今川 柚香

活動していく中で、今やるべきことは無限にあり、それらの可能性は自身でどこまででも広げることができるということを学びました。また、一人では成し遂げることが難しいことであっても、皆で知恵を出し合い、お互いを高め合うことで、いつか大きなものとして「自信」という形になることを教えていただきました。二ヶ月間で得たことすべてがこれから未来につながるものであり、自身の目指すべき指標であると発見しました。この気持ちを胸に、明日からも一歩ずつ前進していきたいと思います。



### 「語学」 日本語を習う学生のためのモチベーション維持の工夫

就実大学 2年 米谷結子

学校生活では学ぶことができない貴重な体験をすることができました。皆様の温かい言葉もあり、前向きに取り組むことができました。現地の方とお話をしたり、実際にスタッフの方々が働かれている姿を見て、「支援」をするには、より強い責任感と考えを持たなければ成立しないと感じました。活動の中で、自分に足りないことを知り、国際交流に対する意識を強く持つことができました。



# ニュー・チャイルド・ケアセンター (NCCC)

プロジェクト・アシスタント 平井 利恵

## ■ NCCC の栄養改善

学生インターンによる一週間、計 21 食の調査を機に、食事と栄養について見直しを行いました。食材と栄養素、料理法、量のほか、一人一食当たりのコスト、日常と特別な時との食事の違いなど、いろいろな面から確認を行いました。料理担当のピセイさんや大きい子達と相談しながら、以下の改善を進めていきます。

- ①米をたくさん食べ、野菜や肉類が少ない→おかずの食材や量を増やす。
- ②食材は同じものを使うことが多い→たんぱく質、ビタミンやミネラルを摂るために、玉子や鶏肉、果物や野菜をもう少し増やす。
- ③味付けが濃い→調味料を控え、スパイス等で味付けに工夫をする。
- ④子ども達にも「食と健康」について話していく。

限られた予算のなかで、子どもの成長に必要な栄養を摂りながら、現地の食文化を大切に、より食生活を豊かにしていきたいと思います。料理上手なピセイさんの「腕の見せどころ」で、子ども達もみんな期待しています。



(上) 食材 (下) ご飯 (一人分) とおかず (複数人分)



## ■ コロナ禍とワクチン接種

8月に再び新型コロナウイルス感染拡大のため、シームリアップがロックダウンになりました。9月には、6歳から12才の子どもへのワクチン接種が始まりましたが、予約はできないため、接種会場には長い列ができました。感染のリスクを恐れながらも、スタッフは連日、朝5時からトゥク・トゥクで10才以上の子ども達と会場に向かい、4回目にやっと接種ができました。その後、10歳未満の小さい子ども達も2回のワクチンを終えることができました。

ワクチン接種が進み、11月には小学校と中学校がようやく再開されました。小学生4名は週3日、中学生2名は毎日元気に登校をしています。子ども達はとても喜んでます。

## ■ オンライン交流会

12月5日、ハート・ペアレントの方とNCCCの子ども達をつなぐ「オンライン交流会」を開催しました。コロナ禍でハート・オブ・ゴールドのスタディツアーが中止となり、2年ぶりに子ども達の笑顔をお届けすることができました。交流会は、自己紹介に始まり、大きい子ども達は日本語で話していました。続いて「NCCCの施設めぐりと日々の暮らし」と題した5分の動画は、子ども達を身近に感じただけのものとなったと思います。ペアレントさんからの質問に答えたり、子ども達から「幸せなら手をたたこう」の歌のプレゼントをしたり、最後にオンライン記念撮影をしました。



子ども達の日常を動画で紹介

NCCCを一度も訪れたことがないご参加者からは「NCCCの建物や子ども達の生活の様子がよくわかりました。本当にありがとうございます。交流里子が元気そうで安心しました。」と、閉会後すぐに事務局にお礼のお電話をいただきました。また、子ども達は、遠く離れた日本から自分の成長を喜んでくれるペアレントさんの存在を実感することができました。

第二回のオンライン交流会も予定しております。更に多くの皆様のご参加をお待ちしています。

ハート・オブ・ゴールドの活動紹介をとおして、途上国への理解を深め、相手の立場に立つこと、継続する大切さ、みんなと協力する楽しさなどを知り、また、自分自身のことを理解する機会を得て、身近なところから社会を変えていく経験の提供をしています。自分達にできる支援（募金、物資など）を実践し、「支援とは何か」、「幸せって何だろう」を考える一助としてもらいます。

新型コロナウイルスの脅威にさらされた2020年から、学校のIT化が急速に進みました。今年度は、オンラインによる交流学習を希望する協力学校の児童、生徒達とカンボジアの活動現場を結びました。

「海の向こうに友達をつくろう」と題し、HGが運営するNew Child Center(NCCC)の子ども達との交流により、異文化理解・国際理解を深める取り組みを進めました。2021年度前半の出前授業7回のうち、3回をオンラインで実施しました。

NCCCの子ども達は、コロナ禍で学校が休校となり、施設の外との行き来を一切行えなかった期間があります。顔が見え、声が聞ける日本の子ども達との交流は、わくわくが伝わってくるほどで、笑顔があふれていました。日本の子どもからは、「この交流を首を長くして待っていて、交流が終わった今は、ふだんもカンボジアのことを考えています。」との感想が寄せられ、先生方からは、「グローバルな問題についての情報だけでなく、具体的な活動をとおしてSDG sの目標達成に向けて実践していることがわかり、良かった」「支援のための募金活動を計画している。誰のために、どう役に立つか、まできを考えた活動できる」との意見をいただきました。そして交流後、それぞれの想いを込めて、支援（物資収集、募金）を実現してくれています。日本からの応援の気持ちが現地に届いて、3学期には、それぞれの学校に、お礼のメッセージと支援物資の使用状況報告をお届けする予定です。

## 派遣者紹介

森 洋貴

「チョムリアップスオ！」

プノンペン太陽をそのままにした、東南アジア事務所スタッフの明るい笑顔。



4月に入職し、コロナ禍で渡航が難しく、本部事務局で勤務をしていましたが、11月4日、私のカンボジア勤務は始まりました。「PE for All」プロジェクトを担当します。カンボジアの子ども達が質の高い体育を学べるように皆さんと手を携え、カンボジアの熱気に負けないよう努力します。どうぞ宜しくお願いいたします。



## 主な活動報告（2021 年後半）

- 7/15 朝日塾小とNCCC オンライン交流会
- 7/15 国際交流基金地球市民賞オンライン報告会
- 8/9 カンボジアパラリンピック委員会へのシューズ引渡式
- 8/10-9/29 インターン受入（本部事務局）
- 8/21-23 JICA 高校体育WS
- 8/25 パラリンピック応援オンラインイベント（ADDP 共催）
- 9/8 インターンとHG ももたらう日本語学校オンライン交流会
- 9/10 高校体育指導書作成WS
- 9/15-17 NIPES WS
- 9/27 岡山理科大学附属高等学校 出前授業
- 9/29 N 連事業中間報告会（プノンペン）
- 10/1 岡山市立政田小学校 出前授業
- 10/7 スポーツ国際開発リカレント研修受講
- 10/9,10 グローバルフェスタ JAPAN2021 出展（東京都）
- 10/11 岡山市立横井小学校 出前授業
- 10/21 岡山市立第三藤田小学校とNCCC オンライン交流会
- 10/20-22 NIPES WS
- 11/1 就労希望者相談（HG ももたらう日本語学校）
- 11/7 Earth Day 出展（岡山）
- 11/17 インターンによるNCCCの食事栄養に関するオンライン報告
- 11/20 岡山ESDフォーラム2021
- 11/21 第11回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国（玉野）  
栄光スポーツ ボール贈呈式（岡山）
- 11/24 朝日塾小学校 物資贈呈式（岡山）
- 12/5 NCCC オンライン交流会
- 12/8 NIPES 施設譲渡式（プノンペン）
- 12/9 JICA 理事長賞表彰授賞式（東京）
- 12/17 第2回理事会
- 12/18 ランプロ シューズ贈呈式（岡山）
- 12/19 山陽女子ロードレース パネル出展（岡山）

## 主な活動予定（2022 年前半）変更あり

- 1/26 SFT シンポジウム
- 2/2 地域国際化ステップアップセミナー（オンライン）
- 2/3-9 国際貢献 NGO フェアパネル出展（岡山）
- 2/12 国際ロータリー 第2780 第3グループ 講演会
- 3/2 岡山せとうち LC 例会にて活動報告
- 3/19-20 淀川マラソン／会員交流会
- 3/22 第3回理事会
- 4/17 かすみがうらマラソン（土浦）／会員交流会
- 5/26 中津川法人会「社団化50周年記念事業」講演会
- 6月 理事会／総会／会員交流会



## 事務局より

### \* HG 会員募集！

友人・お知り合いの方をお誘いください。

個人 1口 3,000 円 / 年、法人 1口 30,000 円 / 年

### \* ボランティア・インターン募集！ 本部事務局にて、事務補助、翻訳、イベント補助をしてくださる方。

\*集めています 書き損じはがき・未使用の切手・クオカード・商品券などご寄付ください。

### \* メールアドレスの登録をお願いします

経費削減のため、通信やお知らせ等をメール配信する準備を進めています。ご協力いただける方は、右 QR コードをスマホ等で読み込み、登録用の画面で手続きしてください。





## 続ける。続けるために。

続ける。誠実であることを。  
日々、課題に向き合い、応える。

続ける。協力し合うことを。  
尊重し合い、多様な知恵と技術で成し遂げる。

続ける。イノベーションすることを。  
しなやかに発想し、挑戦する。

本当に大切なことが続くために。

私の“続ける。続けるために。”

続ける。明日のリサイクルのための提案を。  
循環型社会を支え続けるために。

ごみはリサイクルされればその瞬間から資源です。私はリサイクル施設のメンテナンスを担当するエンジニアとして、できるだけお客さまのニーズをくみ取ってフィードバックしていきたい。それが全国のリサイクル施設の改善につながり、循環型社会を支える助けになればうれしいです。

サービスソリューション事業本部 資源環境事業部  
資源環境技術部

山崎 至紘

### 川崎市 王禅寺処理センター資源化処理施設 点検整備委託業務

ペットボトル、カン、ビンなどの資源ごみをリサイクルするために選別し、圧縮梱包する施設。メタウォーターが施設の設計・建設を行い、現在はメンテナンスを担当している。

山崎は、資源環境事業部のメンバーとして、設備更新の見積もり提案、受注後のプロジェクト管理などを担当。循環型社会の担い手として提案を続けている。

